

アレルギー外来概要

アレルギーとは

難しく言うと「アレルギーとは、抗原(アレルゲン)の再侵入による抗原抗体反応の結果として惹起される生体にとって好ましくない病的反応」のことで、判り易く言うと「ある原因物質に対して体が過剰に病的に反応して起こる様々な“よくない症状”」のことです。

実際には、アレルギー疾患とはどのようなものか？

アレルギーの具体的な疾患としては、乳幼児から大人まで、

- ◎食物アレルギー
 - ◎アレルギー性鼻炎
 - ◎花粉症
 - ◎アレルギー性皮膚炎(アトピー性皮膚炎・金属アレルギーも含まれます)
 - ◎気管支喘息
- などです。

治療方針

原則として、アレルギー検査(血液検査)を行い、その結果を参考として治療方針を立てていきます。

以下にアレルギー疾患の各々について、ご説明いたします。

《食物アレルギー》

問診で、今までのエピソードからアレルギーを起こしている原因となる食物を推定し、そのうえでアレルギー検査(血液検査)を行います。

この結果から原因の食物(アレルゲン)を特定し、治療方針を立てていきます。

その食物を取り除いた除去食治療(完全除去食か部分除去食の選択)について患者さん個々に方針を立てていきます。

この食事療法が基本となりますが、同時に抗アレルギー剤使用の可否も話し合って決定していきます。

具体的には、それぞれの患者さん、あるいはお子さんについて、どれくらいの期間除去療法を行っていくか、また内服薬治療もどれくらいの期間併用していくかについて方針を決めていきます。

《アレルギー性鼻炎》《花粉症》

- ・アレルギーの原因(アレルゲン)の特定
- ・アレルギー症状の強弱の判断(弱陽性～強陽性)
- ・通季性(一年中のアレルギー性鼻炎)か季節性(季節性アレルギー性鼻炎＝花粉症)の判断

をするため、アレルギー検査(血液検査)を行います。

原因物質がわかれば、対処し易くなります。

いくつかある抗アレルギー剤・漢方薬・非薬物治療の中からその人その人に最も合った最善の治療法を考えていきます。

特に、抗アレルギー剤は何種類もありますが、一般的によく効く薬ほど眠気を伴い、眠気の出にくい薬は効き目が弱いと言えます。

患者さん一人ひとりで薬の効き目・眠気の強弱は様々ですので、なるべく眠くならずによく効く薬を選択することが重要です。

また、漢方薬についても一つの選択肢として提案しています。

花粉症については、[花粉症外来](#)のページもご覧ください。

《アトピー性皮膚炎》

内科的、小児科的アプローチを行います。もちろん外用薬(ぬり薬)も用います。

全身の状態と皮膚の状態を考え合せ、以下の点について一人ひとりの患者さん個々に治療方針を決めていきます。

- ◎抗アレルギー剤使用の可否
 - ◎抗アレルギー剤を使用する場合の薬剤の決定。
 - ◎外用薬(ぬり薬)使用の可否
 - ◎外用薬(ぬり薬)を使用する場合の、ステロイド系・非ステロイド系薬剤の判断
- また、アトピー体質の完治を目的として、漢方薬の処方も検討していきます。
詳しくは[漢方薬外来のページ](#)も参照してください。

《気管支喘息》

気管支喘息もアレルギー症状の一環としてとらえています。

検査としては、胸部レントゲン撮影・呼吸機能検査(スパイログラフィー)とともに、アレルギー関連の血液検査もおこなっていきます。

採血にて、IgEや好酸球など気管支喘息・アレルギーに関する項目もみていきます。

これらの結果を踏まえて、治療方針を決定していきます。

治療薬は、

- 基本薬『ベース薬』： 普段日常的に用いるお薬
 - 緊急薬『リリーバー』： 喘息発作が出た時などに用いるお薬
- に、大別されます。

『ベース薬』としては、気管支拡張剤やロイコトリエン受容体拮抗薬などの内服薬か、吸入ステロイド剤又は漢方薬、あるいはこれらの組み合わせを選んでいきます。

比較的新しい薬であるロイコトリエン受容体拮抗薬(キプレス、シングレア)は、一日一回就寝前の服用で、気管支拡張作用と気管支の炎症を抑える効果を併せ持つため、気管支の状態を安定させてくれます。

吸入ステロイド剤は、気管支局所に作用するため副作用も無く、以前から気管支喘息治療薬の第一選択薬として使われていますが、最近は気管支拡張作用のある薬とステロイドとの合剤の吸入薬もいくつか登場していて、治療薬選択の幅が広がっています。この新しい合剤の吸入薬は即効性と持続性の両方の作用を兼ね備えているため、気管支の状態を安定させ、発作を起こしにくくするとともに、軽い発作であれば抑えてしまう作用もあります。

緊急薬『リリーバー』については、β受容体刺激薬のスプレー(メブチンエアー・サルタノール・インヘラーなど)を用いた喘息発作時の対処の仕方及び、これらスプレーの適正な使い方について説明してきます。

また、先程も触れました様に、最近は即効性と持続性を併せ持った合剤の吸入薬も新しく出てきていますので、これを用いることにより、発作の出る回数が減り、緊急薬『リリーバー』を使用する頻度を減らすことができます。これらの薬をどの様に組み合わせていくか、各々の患者さんに則して考えていきます。